

研究室紹介

福岡県保健環境研究所

環境科学部大気課



福岡県広報部長
エコトン

今回御紹介させていただくのは、太宰府天満宮で有名な太宰府市にある福岡県保健環境研究所環境科学部大気課です。昭和48年に福岡県衛生公害センターとして発足し、平成4年に福岡県保健環境研究所に改称、平成20年4月に現在の3部10課体制となりました（その後、平成23年4月に福岡県感染症情報センターを併設）。大気課は昭和48年の発足当時からあり、現在の職員数は8名です。

なお、当所の職員は、事務職を除いて研究職としての採用となっており、県庁環境部や保健医療介護部との人事交流や福岡県リサイクル総合研究事業化センターへの派遣を除くと、原則、所内での異動となっています。

大気課の業務は、大きく大気環境監視調査、排出基準監視調査、大気環境把握調査、環境放射能水準調査の4つに分類できます。

大気環境監視調査としては、大気環境測定車「さわやか号」による環境大気調査、揮発性有機化合物や重金属などの有害大気汚染物質モニタリング調査、九州ブロックのオキシダント二次標準器の校正維持管理業務などがあります。

排出基準監視調査としては、大気汚染測定車「あおぞら号」による工場・事業場などのばい煙発生施設立入調査などがあります。

大気環境把握調査としては、国設酸性雨測定所の管理運営業務、湿性・乾性沈着の酸性雨調査、PM_{2.5}成分分析などがあります。

環境放射能水準調査では、空間放射線の測定、土壌・海水などの環境試料や農産物などの食品試料の核種分析を行っています。

なお、大気汚染常時監視測定局の管理は、企画情報管理課が担当しています。

福岡県は九州に位置するため、大陸からの越境大気汚染が大きな問題となっています。このようなグローバルな現象に対して県単独では対応が難しいため、国立環境研究所のⅡ型共同研究の枠組みを利用して、PM_{2.5}による越境大気汚染の影響評価や大気汚染物質の山地における植生影響に関する研究を行っています。また、日韓海峡沿岸環境技術交流事業として、平成23年度より、山口県、佐賀県、長崎県とともに韓国（全羅南道、慶尚南道、釜山広域市、済州自治道）とPM_{2.5}に関する共同調査を行っています。

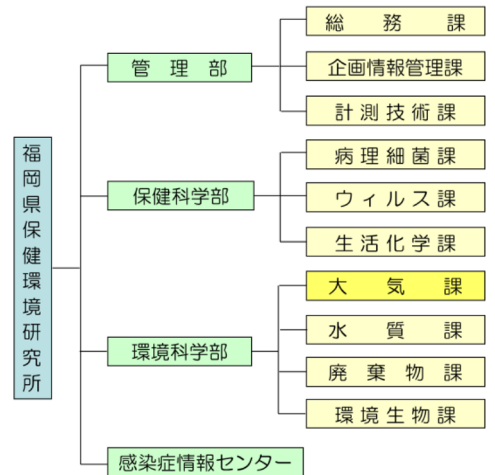
さらに、大気汚染物質の削減技術として、高活性炭素繊維による大気浄化技術や放射性セシウム吸着剤の開発を行っています。

昭和40～50年代に日本の公害行政に重要な役割を果たしてきた地方公害研究所ですが、近年、地方独立行政法人化や公益財団法人化された自治体やその検討が行われている自治体が相次いでいます。このようなときだからこそ、地方環境研究所としてのアドバンテージは何か、その存在意義は何かじっくり考えながら、仕事をしていきたいと思えます。

(大気課 濱村研吾)



福岡県保健環境研究所（福岡県太宰府市）



保健環境研究所の組織図



研究所屋上でのサンプリング風景



広報番組の取材後、福岡のご当地アイドル LinQのメンバーと